

明治大学外国人研究者招聘制度 報告書

<招聘教授・研究員の情報 / Guest Professor・Guest Scholar>

氏 名	鄭巨欣
Name	
所属機関(派遣元)	中国美术学院
Affiliation (Home Organization)	
現在の職名	教授
Position	
招聘期間(日本への入国日から出国日)	2025年3月16日—12月20日
Invitation Period (from the date of entry to departure)	
専攻	美術研究
Field of Research	
ホスト教員氏名と所属学部研究科等	郭南燕・明治大学文学部日本文学専攻
Name of host teacher and affiliation at Meiji University	

<外国人研究者からの報告 / Foreign Researcher Report>

①研究課題 / Research Theme
宣教師による中国江南文化の日本伝播
②研究概要 / Outline of Research
<p>幕末明治初期の来日したパリ外国宣教会の宣教師プティジャン司教、ド・ロ神父は、上海徐家匯土山湾印書館（慈母堂）の出版した書籍を手本として、日本で、宣教関係の書籍を多数印刷した。いわゆるプティジャン版（あるいはド・ロ版）である。そこには、中国江南地方の文化的要素（画像、文字、装丁）を多く取り入れていたので、詳細な調査を行った。</p> <p>上智大学のキリシタン文庫で、プティジャン版の初版本三点（『弥撒拝礼式』『玫瑰花冠記録』『ろざりよ十五のみすてりよ図解』）を考察し、江南文化の要素について専門家たちと意見交換をした。</p> <p>また、シンガポールのアジア文明博物館でも調査を行い、土山湾工房（イエズス会主宰）が20世紀初頭で制作した仏塔模型に現れた江南文化のイメージについても調査し、仏塔に描かれた絵の内容を検討した。</p> <p>日本滞在の期間中、明治大学の郭南燕教授と毎週お会いし、本研究テーマに関して活発な意見交換を行い、外国人宣教師がヨーロッパ—上海—長崎というルートを取り、ヨーロッパ、中国、日本の三つの文化的伝統を、明治初期の石版印刷に刻んだ痕跡を整理することができた。</p> <p>また、日本国内で本研究テーマと関係のある研究活動にも参加した。</p> <p>1）日本奈良市の正倉院事務所の招聘を受け、調査員として2025年秋季定例公開に際して、「夾纈」に関する特別調査に参加した。</p> <p>2）日本文化財保存修復学会より招待を受け、富山で開催された第47回大会に出席した。</p> <p>3）明治大学考古学系の招請により、南京大学/明治大学大学院生学術交流講演会において論評者として参加した。</p> <p>4）「東アジア古印研究国際学術シンポジウム」にも出席し、国際的な学術交流を行った。</p>
③招聘期間中の研究活動の実績 / The research results as Guest Professor・Guest Scholar
<p>2025年8月の「土山湾研究会」（郭南燕主催）において、調査結果を報告し、多くの研究者からコメントや質問をいただいた。それに基づいて、論文「『弥撒拝礼式』の印刷・版式および花欄意匠の分析」を完成させた。本論文では、プティジャン版『弥撒拝礼式』が、日本の印刷技術が木版から石版へと移行する過渡期に制作されたカトリックの典礼に関する書籍である点に注目し、その印刷の技法および版面の構成に中西折衷的な特徴が認められること、さらに花欄文様が宗教的象徴性と中日両地域の美的感覚を併せ持つことを明らかにした。本論文は、郭南燕編著の新刊『上海土山湾工房と日本文化』（暫定タイトル）に収められ、2026年9月に刊行される予定である。</p>

